

第1学年1組 生活科学習指導案

日 時 令和3年10月29日(金) 4校時
場 所 1年1組教室 児童数 30名
指導者 教諭 大久保 久美子

1 単元名 じぶんで できるよ ～できたねフラワーを咲かせよう！～

2 単元について

(1) 単元観(教材について)

学習指導要領の内容

- (2)「家庭と生活」家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。
- (8)「生活や出来事の伝え合い」自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

本単元は、上記の学習指導要領の内容を受けて設定する。

本単元では、家庭生活に関わる活動を行いながら、自分も家族を構成する大切な一人であることや、家族はお互いに支え合って生きているということに気付き、自分の役割を進んで行うことができるようになることを目指している。また、自分自身の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けて生活しようとする態度を育てることも目指している。自分や家族の生活をふり返ったり、家庭生活の中で自分ができることを考えたり、実際に活動に取り組む期間を長く設定したりすることにより、自分の役割を積極的に果たすことができるようにする。また、体験活動を繰り返し行うことにより、自分でできたという成就感や家族の良さ、家族の一員としての自分の存在に気付くことができるという点から効果的な単元であると考え。

家庭を構成する一員として自分でできることは自分でできるようにしたいという思いや願いの実現のために児童は本校が目指す3Cを発揮することになる。家庭生活について分かったことを伝え合い(Communication:相手との交流)、家族が喜ぶような活動を考え(Care:相手への配慮)、自分でできることやそれに対する問題点などを見付けて試行錯誤しながら粘り強く取り組む(Continuity:継続する力)ことである。

(2) 児童観(児童の実態)

本学級の児童は、学校生活において自分でできることが増えてきた。黒板を消したがつたり、昼休みにほうきを使いたがつたり、学級の仕事を進んで見付ける児童も増えてきている。日直、掃除、給食などの当番活動に対して、自分の役割を自覚し積極的に取り組む姿も見られる。また、夏休み中の家庭生活においては、家の仕事や手伝いなどを継続して実施した児童が多かったが、2学期になって翌日の準備や身の回りの整理整頓など、家の人にしてもらったり手伝ってもらったりしていることも多く、自分で進んでしている児童は少ない。

また、生活科の学習の中で使用した「見つけたよカード」などで見つけたことや自分の思いを絵や短文に表したり、ペア活動で話したりすることが少しずつできるようになってきた。しかし、

自分の伝えたいことを相手に分かるように話すことが苦手な子どもたちも見られる。そこで、相手を意識した話し合い活動の場の工夫が必要であると考え。

(3) 指導観（指導について）

本単元の導入においては、自分の一日の生活を家の人と比較しながら振り返り、自分の生活が家の人に支えられていることや生活のリズムを整えることが健康な生活につながっていることなどに気付かせる。

展開においては、家庭生活の中で自分が役割を果たしている姿を想像させながら「自分の力でできることをもっとふやそう」という思いをもって、「できたねフラワーを咲かせよう」の計画を立てるようにする。自分でできることを増やし継続して取り組む中で、気付いたことや困った事を伝え合う時間を設けることで、改善策を考えたり、活動の質を高めたりするプロセスを体験させたい。また、児童の実践に対して家族から肯定的な感想を伝えてもらうことで、家族の役に立っている充実感を感じ、自分に自信をもって生活できるようにしたい。そのためにも、学級通信などで単元のねらいを伝え、どのような関わりをしてほしいかを具体的に保護者に伝えるようにする。

3 単元の目標と評価規準、及び SDGs・3C との関連

(1) 単元の目標

家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家の人のことや家の人のおよき、自分でできることなどを見付け、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとするようにする。

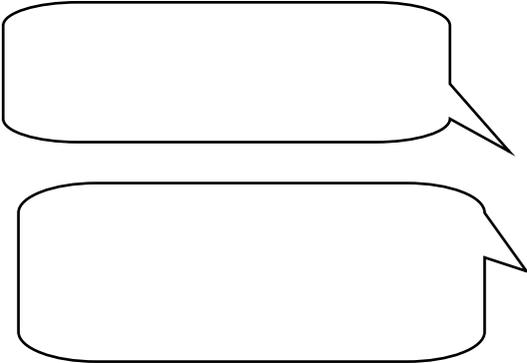
(2) 単元の評価規準、及び SDGs・3C との関連

	本単元の評価規準	SDGs との関連	3C との関連
知識・技能	・家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気付いている。	 3 すべての人に健康と福祉を	①【Communication】 家庭生活について分かったことを伝え合う活動を通して、家族と交流することのよさや楽しさが分かる。
見聞・表現	・家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、家庭における家の人のことや自分でできることなどを見付けている。	 8 働きがいも経済成長も	②【Care】 自分も家庭を構成する大切な一人であることに気付き、家族

主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。 	<p>が喜ぶことを見付けて実践する。</p> <p>③【Continuity】</p> <p>自分でできることやそれに対する問題点などを見付けて、試行錯誤しながら粘り強く取り組もうとしている。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 単元指導計画（全12時間）

小単元名・主な児童の反応	ねらい (○教師の手立て)	評価 規 準	3 C	評価方法
<p>1 じぶんのいちにちをみつめよう (3)</p> <p>1日の生活の中で自分はどんなことをしているのかな。</p> <p>朝はいつも家の人に起こしてもらっているよ。</p> <p>家の人に支えられていることが多いよ。</p>	<p>じぶんといえのひとの1日をふりかえろう。</p> <p>○児童の発言を、朝学校に行く前のことと、家に帰ってから寝るまでの事に分けて板書し、児童が理解しやすいように見える化する。</p> <p>○家でしていることの順番を考えながら、朝起きてから夜寝るまでのことを記入できるように声をかける。</p> <p>○基本的な生活習慣について考えられるよう、起床時刻や就寝時刻についても取り上げるように声をかける。</p> <p>○家の人が行っていることや、家の人にもしてもらっていることに気付くことができるように焦点を絞り、次の小単元につなげられるようにする。</p>	知 知 知	①	発言 ワークシート 発言
<p>2 じぶんでできることをしよう。(6) (本時5/6)</p>	<p>○全小単元でかいたワークシートを参考</p>	知 思		発言 ワ

	<p>にして、家でのことを想起させる。</p> <p>○家の人にどんなことを聞いてきたらよいか話し合い、準備をしっかりと確認できるようにする。</p> <p>○記録カードを参考にさせ、自分が続けられそうなことを考えられるようにする。</p> <p>○記録カードには、保護者からのコメント欄を設け、家での取り組みが継続できるようにする。</p> <p>○家庭での取り組みとなるので、活動の趣旨について連絡し、理解や協力を得られるようにする。その際、仕事の出来栄で評価せず、自分でしようと思ったことを認め、賞賛してもらうようお願いする。</p> <p>○取り組んでよかったことや大変だったこと、難しかったことなどを記入できるようにする。</p> <p>○今後も継続的に続けたい、ほかのこともやってみたい、などの思いをもてるように、一人一人の取り組みの様子が見えるように、「できたねフラワー」に記入させる。</p>	知 思 態	②	<p>ークシート</p> <p>記録カード</p> <p>ワークシート</p>
<p>3 これからも続けよう。(3)</p> 	 <p>○保護者のコメントを花型のメッセージカードに書いてもらい、活動意欲につなげる。</p> <p>○一人一人の頑張りを認め、続けられていることを称賛する。</p> <p>○学校での取り組みについても記録し、活動場面を紹介し、褒める。</p>	知 思 態	① ② ③	<p>「できたねフラワー」のワークシート</p>

(1) 本時の目標

家で自分が実践していることを伝え合う活動を通して、取り組みへの問題点や、家の人の役に立つための改善点などについて気付くことができる。

(2) 本時に位置付けた評価規準

家で自分が実践していることを友達と伝え合い、取り組みへの問題点や家の人の役に立つための改善点などについて考えることができる。(思考・判断・表現)

(3) 展開 (□…評価 B おおむね達成 ●達成不十分な児童への手立て)

過程	学習活動	教師
つかむ	1 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	 <ul style="list-style-type: none"> ○「できたねフラ人一人の取り組み ○発表に必要な具とを伝えたいと ○レベルアップすになるかを確認る。
探る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> レベルアップするためにできることを見つけよう。 </div> <p>2 自分が取り組んでいる仕事を、グループで発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">活動の流れ</p> <p>①自分の取り組みを友達に紹介する。</p> <p>②発表した人の取り組みの問題点を見付け、解決するためのアイデアを出し合う。</p> <p>もんだいてん⇒かいけつのアイデア ※解決が難しかったら、「お悩み相談」で学級全体に知らせる。</p> <p>③グループ全員の発表が終わったら、自分がレベルアップするためにできることを考えて書く。</p> <p>⑥振り返る。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の見通しがもてるように、手順を提示する。 ○話し手は、取り組んだときの手順やうまくいったこと、難しかったことなどを発表する。発表する際は、自分の必要な具体物を実際に使いながら、発表しても良いことを知らせる。 ○聞き手は、問題点やレベルアップするためにできることを見つけ、話し手に伝えるように促す。 ○実物を使ったり、仕事のこつを教え合ったりしながら、レベルアップしたいという気持ちを高めるようにする。 ○活動の流れを踏まえて話し合っているグループを紹介し、価値づけをする。
まとめる	3 本時の活動を振り返り、次時の活動の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートをもとに、レベルアップするために自分ができると発表させる。 ○自分の役割を果たすだけでなく、それが家族の役に立っていることを実感した児童を賞賛する。 ○レベルアップしたり、他の仕事にチャレンジしたりしたいという児童の意見を紹介することで、次時への意欲につなげる。

6 本時の考察

- ・本時では、家で自分が実践していることを少人数グループで伝え合う活動を行った。活動の流れを提示したが、見通しをもてずに具体的に何をすればいいのかわからない児童が多数いた。細かく分けた手順やシナリオをモデルとなる児童に発表をさせる、という活動を取り入れる必要があった。

資料1 少人数で話し合う児童

- ・グループの中には、友達の取り組みの問題点に対してアドバイスをしたり、もっとレベルアップするにはどうしたらよいかなどを話し合ったりするなど、児童同士の情報交換（Communication）がスムーズにできているところもあった。また、グループの中でだけで解決できない問題点については、学級全体で共有しアイデアを出す時間を設けた。
- ・振り返りカードの中には、自分の役割を果たすことで、それが家族の役に立っていることに気づき、喜びを感じたり次の意欲につながったりする記述が見られた。また、友達の取り組みを知り、他の仕事をやってみたいという意欲につながる児童も見られた。

7 成果と課題

① 成果

- ・単元を通して、「お家の人の役に立つために、自分の力でできることをもっとふやそう」（Care）という思いをもって、取り組み

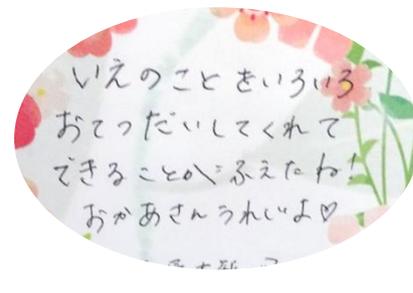
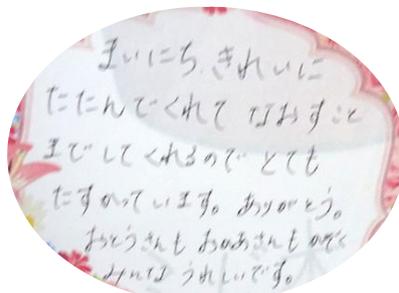
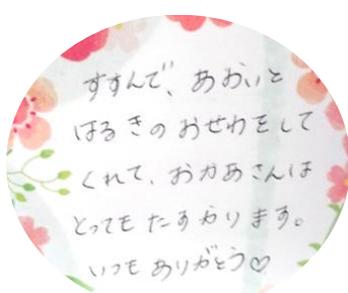
状況を『できたねフラワー』（カード）で可視化した。自分で進んで仕事をしたときに葉を増やし葉がたまると花を咲かせるように設定することで、意欲を持続させることができた。冬休みのお手伝いに、意欲的に取り組む児童がたくさん見られた。

- ・自分が取り組んでいる仕事に対して改善策を考えたり活動の質を高めたり（Continuity）するために、自分の仕事を紹介したり気付いたことや困った事を伝え合ったりする時間を設けた。相談したりアドバイスをもらったりしたことで、自分の取り組み方を顧みたり、もっと上手にできるようになるにはどうしたらよいかを考え、その児童なりのレベルアップにつなげることができた。
- ・児童の実践に対して家族から肯定的な感想を伝えてもらったことは、家族の役に立っている充実感を感じるためにもとても有効であったと考える。そのためにも、学級通信などで単元のねらいを伝え、どのような関わりをしてほしいかを具体的に保護者に伝えることが重要である。

資料2 児童の振り返りカード

なっているてさはなを
 やなせるのがきつかったは
 どなきやんでおろす（んか）
 よるこんでねてお（んか）

たきからさるお（んか）をしよう



資料3 保護者からのメッセージカード

② 課題

- ・多様な家庭環境・家族構成があることから、友達との比べ合いにならないように十分配慮する必要があるが、お家の人の関わり方（進んで取り組んでいたかをチェック表に記入してもらったり、メッセージを書いてもらったり）に差が出てしまうのは否めなかった。
- ・「伝え合う」スキルを十分に高められていなかったため、少人数での発表会が成り立たないグループがあった。ワークシートを発表形式のものにしたり、スモールステップで発表させたり、モデリングを活用したり、更なる工夫と手立てが必要である。また、国語科の「話す」領域の単元との連携を図っていく。



資料4 できたねフラワー